

タイ南部でインド洋津波の堆積物調査を行いました (2018/11/20-21)

テーマ：津波堆積物

場所：パンガー県パカラン岬・プラトーン島

2004年インド洋津波によって、インド洋全体に大きな津波による被害が発生しました。東北大学などでは、その中で堆積学の観点から2004年の津波の特徴とその前に発生した巨大津波堆積物に着目した土砂移動モデルの研究に取り組んでおり、11月20-21日に現地調査を行いました。調査グループは災害科学国際研究所のサッパシー アナワット准教授（災害リスク研究部門）と保田真理プロジェクト講師（寄附研究部門）、加齢医学研究所の野内類准教授、大阪大学の原口強准教授及び弘前大学の小岩直人教授、タイ気象局、タイ国際津波博物館館長らで構成され、合同で調査を実施しました。パカラン岬では2004年インド洋津波により岬が大きく侵食され、津波直後から地形が戻る状況を継続的に研究グループにより観測されています。今回はドローンを飛ばして、将来の地形と比較する情報として現在の地形の3D画像を作成しました。プラトーン島では2004年の津波後に津波堆積物の研究が進んでおり、2004年と数千年前までの津波堆積物が確認されています。現在、研究グループは津波による土砂移動モデルをプラトーン島に適用しています。今回の調査では、島の地形、堆積物が発見された場所等、現在取り組んでいる研究に有用な情報が得られました。また、今回採取した堆積物は防災教育の教材として、カオラック地区での津波国際博物館で展示される予定です。

調査の様子がタイ国営テレビ（Thai PBS）の番組「特集 Don't Panic」で紹介されました。

<https://www.facebook.com/ThaiPBSFan/videos/270066866900574/UzpfSTI1NTA4OTc5MTI1MDA3NzoxOTgxMDAyNDU1MzI1NDYw/>

<https://youtu.be/xfFORuv5pv8>



パカラン岬での津波石



プラトーン島での調査の様子



カオラック津波メモリアル公園



カオラックでの国際津波博物館

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）、保田真理（寄附研究部門）